

岩手県職労

月2回刊=1501号
2018年1月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所 盛岡市内丸10番1号 岩手県庁内 岩手県職員労働組合 印刷所
盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジョー印刷企画 一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

県職連合第23回 臨時大会
県職労第119回
日時 3月3日(土) 13時
場所 自治労県本部会議室



▲前回交渉の域を出ない当局を追及する地公交渉団 ▲官民較差・財政事情に終始する県当局

退手引下げ時期『再検討』に押し戻し

地公共闘 引下げ阻止・勤務意欲確保求め全力を

1月23日、岩手県地方公務員共闘会議は、退職手当引下げ、給料の特別調整合額(管理職手当)減額継続の撤回を求めるべく、ヤマ場となる佐藤人事課総括課長と交渉を行った。佐藤人事課長は、官民較差解消・国準拠・財政課題の回答に終始し、交渉は平行線。現場代表の切実な訴えもあり、引下げ時期の再検討の回答を引出した。

【退職手当引下げ課題】

佐藤人事課長は、引下げに伴う影響に関し、「職員への影響を踏まえつつも、官民較差解消の趣旨や財政事情等を検討して提案した」とする従来の姿勢に終始し、当局による財政努力に関しても「退職手当について、多くを退職手当債に依存。国では1月から退職手当の支給率を引き下げているため、今年度退職者に踏まえ設けない」、「高齢

支払う退職手当債の総額について、約7億の減額となっており、新たな多額の財源対策が必要」とし、当局努力が示されないばかりか、今年度退職者からの引下げを譲らない厳しい交渉となった。

さらに、引下げに伴う職員の負担軽減や勤務意欲策については、「引下げに係る経過措置は、国や他県を踏まえ設けない」、「高齢



▲県庁4・5階フロア座り込みで交渉支援



▲“退職手当を引下げるな”のシュプレヒコール



▲賃金水準の改善を訴えた野中委員長

2018春闘討論集会

「労働者主役」の春闘勝利を 県職労 支部代会議で当面の運動課題を共有

1月20日、盛岡市ホテル大観で2018自治労県本部春闘討論集会が開かれ、県職労から43人が結集した。開会に当たり、県本部野中委員長は「安倍首相は今春闘で財界に対し3%の賃上げを要請する官製春闘を繰り返すいびつな春闘構図が続く。安倍首相の3%の賃上げ実現も、長

時間労働の上限規制で残業代が抑制されるのが実態に3・2%に及ぶ試算もある。これでは全く賃金改善とならないのは明らか。こうした政府の矛盾を明らかにすることが必要だ。春闘は闘いのスタートである。実質賃金は減少している。8時間労働で自分や家族の生活が成り立つ賃金水準の確

保、長時間労働是正に向け全力を挙げよう」とあいさつ。その後、2018自治労春闘方針(案)について自治労本部榎本労働条件局長から基調講演を受けたのち、県本部春闘方針(案)について、県本部伊藤書記長から提起を受けた。12月に実施した県本部春闘アンケート集計結果をもとに、県本部の賃金要求額を月額13,000円とし、かつ確定闘争期からの継続課題の前進、長時間労働是正を柱とした要求方針と3月を要

求書提出・交渉の設定等の交渉スケジュールを提示した。県職労では、分科会として拡大中央闘争委員会・支部代表者会議を開催し、17確定闘争の到達点を踏まえた春闘要求方針の討論、退職手当引下げ阻止闘争の当面の方針、新採用加入促進について協議した。支部からは、「欠員解消について、昨今辞退者が増加している。職員採用の在り方や処遇などの点について追及すべき」、「超勤予算確保のための要求書作成で苦労。円滑に配分できるように交渉を」との春闘方針への補強を受けた。新採用加入対策では今年度の運動を踏襲しつつ、先輩組合員からの声かけのための組合の運動成果の学習強化について意見が出された。県職労は討論を踏まえ、18春闘方針の確立に向けて取り組みを進めていく。

第五世代

1月22日、第196通常国会が召集された。安倍首相の施政方針演説では最大の焦点として「働き方改革」が取り上げられ、法案が提出されている。作

保健福祉企画室長・環境生活企画室長交渉

薬剤師／保健師／栄養士の処遇改善等を求める

県職労 主管室交渉の闘争サイクル化めざす

1月12日、県職労は各保健所課題を中心に環境生活部・保健福祉部交渉を行った。保健所関係に係る主管室交渉は初めての取り組みであり、昨年11月～12月に保健師、薬剤師、栄養士の職場課題を討論し、その結果をもとに要請書にまとめ、環境生活部・保健福祉部に事前に要請し、交渉日に基本姿勢を質した。

【熊谷保健福祉企画室長交渉】
保健師課題に関し、熊谷室長は「人員配置は2017年度は54人体制であり、

配置数を増やしてきている。業務内容を踏まえて人員は確保していく」とし、これに対し、精神障がい者に係る通報件数が増加していることを踏まえた対策を質したところ、「精神科通報の課題は何一つない。精神障害者福祉法の改正が見込まれており、新たな行政需要に対応できる

よう精神保健福祉士等の専門職の採用を含めて総務部と協議する」とした。ベテラン保健師が順次定年退職を迎え、保健師の専門性の確保が求められる課題に関し、熊谷室長は「来年度は新採用4人、経験者3人の募集しており、経験者は主任又は主査級のベテラン職員とし、中堅層を厚くする。今後も職員配置の状況を見て経験者枠の検討をする」とした。その他、特殊勤務手当の改善、保健師を統括する職の設置などを訴えた。

で退職を迎えることから、定年前までに若手を採用し、ベテラン職員の中で育成するよう人材確保、複数配置に向け増やしていく」とした。処遇改善に関しても「初任給の格付けや担当課長級までの到達等は課題を踏まえ、必要に応じて人事課に伝える」とした。薬剤師課題では健康国保課業務担当の体制強化を求めた。

【高橋環境生活企画室長交渉】
平和環境センター新春講演会と旗開き

【高橋環境生活企画室長交渉】
薬剤師課題に関し、高橋室長は「薬剤師の確保は定年補充の有無にかかわらず継続的に職員募集をし、確保に努める」とした。各保健所の薬剤師の配置改善に關しては「人事異動に当たっても所管エリアが広い保健所における職員体制を厚くするよう取り組んでいく。薬剤師1人体制の保健所ではベテラン職員の配置に努める」とした。交渉団

3000万市民アクションに結集し 安倍による改憲阻止に全力挙げる!

1月13日(土) 平和環境県センター主催の2018新春講演会と旗開きが盛岡市で開催された。

新春講演会は、漫画家の石坂啓さんが「子どもたちの未来と憲法」と題して講演。手塚治虫先生に師事していたことを語り、手塚先生の精神として、「弱者を笑わない」「戦争を美化しない」を基本とし作品を描

旗開きでは野中靖志議長(自治労)が「安倍政権は、憲法改正を進めようとしている。私たちは全国3000万人署名、『安倍9条改憲NO!憲法を活かす全国統一署名』に全力取り

【改憲】許すな!と意志固めを行った平和環境センター旗開き

2018各支部旗開き開催!

1月15日号でも紹介しましたが、16日・一関支部千厩分庁舎、17日・胆江支部、気仙支部が、18日・北上支部、宮古支部。26日に花巻支部でそれぞれ決意も新たに2018躍進旗開きが開催された。その様子を写真で紹介。



▲花巻支部旗開き



▲参加者は少なかつたが団結を誓い合った北上支部旗開き



▲「鏡開き」で旗を開いた胆江支部



▲千厩分庁舎の旗開き(一関支部)



▲じゃんけん大会等で盛り上がった気仙支部旗開き



▲宮古支部旗開き

奥州市議会議員選挙

「佐藤いくお」さんを推薦へ

2月25日告示・3月4日投票



佐藤 いくお (無所属 現・70歳 2期)

県職労は、2月25日告示・3月4日投票開票の奥州市議会議員選挙において、「佐藤いくお」(70歳・現組む。また奥州市、宮古市、花巻市議会選挙の勝利をめざす」とあいさつ。達増拓也知事や木戸口英司参院議員からも来賓として出席し参加者を激励した。

2期・無所属(社民党推薦)さんを推薦決定した。佐藤いくおさんは、旧江刺市職労執行委員長、連合岩手胆江地域協議会議長を歴任し、2010年に奥州市議会議員に初当選。今回は3期目の挑戦となる。佐藤いくおさんは、労働運動の経験を活かし、住民福祉の向上、労働者福祉の向上、雇用対策を柱とした政策を掲げ、生活者視点の地域活性化に取り組みとしている。県職労は同氏の必勝に向け、組合員・家族への支持浸透に全力を挙げる。

18年度役員選挙 全ポスト信任投票に

投票日は2月16日

1月19日から立候補受け付けが始った2018年度岩手県職員労働組合役員選挙は26日に届け出が締め切られた。すべてのポストが定数から1年間。

立候補者の氏名、役職名は2月5日に公示となり、投票は2月16日、開票は22日に本部選挙管理委員会一括開票される。新役員は4月1日から1年間。

組合員だけでなく、配偶者、子どもも一緒に加入できます。

家族も安心、みな安心

しちろうの団体生命共済 自治労共済本部

●詳しくは所属する組合まで